

名古屋 ヘビー中心に目先も弱含み気配継続

(名古屋)名古屋地区メーカーのトピー工業は24日からヘビーのみ500円の値下げ改定を実施している。改定後のH2建値は4万5500円。

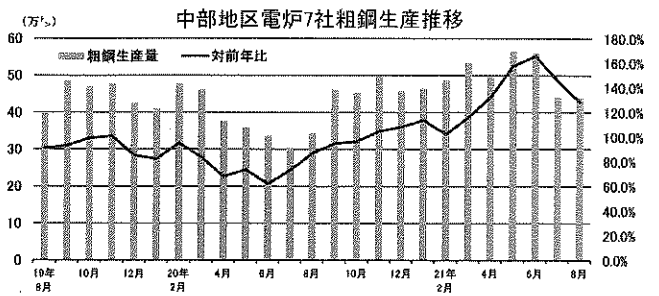
域内では、20日から東京製鉄田原工場がグライ粉据え置きその他500円の購入価格引き下げを実施、大半のメーカーが加工スクラップを除き即日同値幅での下げを行ったものの、トピー工業は炉休及び荷止め中があったこともあり、荷受けを再開する24日からの対応となった。地区メーカーのH2実勢値は4万7000~4万8500円どころ中心。

電炉メーカーは夏場の減産期にあることで、生産水準を落としているものの、域内メーカーでは夏季炉休筋も1社を残すのみで、今週末には全メーカーで炉休も明ける。ただヘビー類は電炉買値が輸出価格を上回る状況が長期的に続いていることで、入荷に関しても

「第21回レアメタル資源再生技術研究会」が開催

(名古屋)8月23日に「第21回レアメタル資源再生技術研究会」がオンラインで開催された。

当日は「2050グリーン成長戦略に見る各種資源リサイクルーリチウムイオン電池(LiB)のリユース・リサイクルー」をテーマに、金城産業(株)金城正信社長の「小型家電におけるリチウムイオン電池リサイクルの現状と課題」、レアメタル資源再生技術研究会 藤田豊久会長「中国国内での自動車EV化とリチウムイオン電池のリユースとリサイクル」、国立環境研究所 資源循環領域 寺園淳上級主席研究員「リチウムイオン電池含有電気製品の循環・廃棄と火災防止対策」、DOWAエコシステム(株)環境技術研究所 渡邊亮栄所長「DOWAエコシステムによるリチウムイオン電池リサイクル」、JX金属(株)技術本部技術戦略部LiBリサイ



安定的に取り込めている所が多く需給は引き締まりを欠いた状態にある。

関東や関西では今後も電炉の夏季炉休が複数で予定され、消費の後退から東京製鉄田原工場には他地区から高水準の海上玉流入が見込まれる。9月以降は地区電炉生産も増加し底堅い消費環境は続くものの、ヘビー中心に目先も弱含み気配。

クル事業推進室 竹内智久主任技師「JX金属(株)のLiBリサイクルについて」の5講演とパネルディスカッションが行われた。

その中で金城氏は小型家電のリチウムイオン電池(以下、LiB)リサイクルについて、以下のように語った。小型家電の回収量は年々増加しており、2018年の回収量10万398トンは2013年の回収量2万3971トンと比較して約4倍となっている。市町村に対しての実態調査によれば、2019年7月時点で対象市町村の81%、居住人口ベースでは94%の自治体が小型家電の回収・処理の取組みを実施していると回答した。

LiBは多くのエネルギーを蓄えることができ、小型の充電式電子機器に多く使われている。そのため小型家電の回収量が増えるにしたがって、LiBによる火災事故の問題も顕著となってきた。機器が高温、高熱、圧力、衝撃に晒されると内蔵されたLiBから発火してしまう。事故防止の手段としてはリサイクル前の事前選別が主となっている。小型家電リサイクル協会が行った全国の小型家電リサイクル法認定事業者41社へのアンケートによると、9割の事業者が手作業での解体を行っており、コスト高などの課題がある。またその他の処理フローにおいても、自治体や家電量販店での分別、専用の取り外し工具の開発、輸送時に絶縁テープや専用コンテナを使用するなどの取組みが必要。そして発火が起きても迅速に発見して消火するために、サーマルカメラや温度感知センサーなどの設置も必要となる。

金属総合リサイクル推進を展開

最新鋭加工処理ライン新設稼働

製鋼原料全般

- 非鉄事業部 { 被覆電線スクラップ・解体
アルミ、新切アルミ等 }
- 貿易事業部 { 各種廃モーター・配電盤
各電機部品等雑品 }

取得許可 産業廃棄物収集運搬・中間処理

株式会社 **松山商店** 本社 名古屋市港区十一屋2-135
工場 TEL 052-381-1988(代表)
FAX 052-383-7610